

PEACE 派遣留学報告書

記入日 2018 年 1 月 11 日	
氏 名	川口 健太
所属学部・研究科	理学研究科博士課程後期 1 年次 (留学開始時点)
学 生 番 号	D171358
留 学 先 大 学	ベトナム国家大学ホーチミン市校 大学 (国名:ベトナム社会主義共和国) 自然科学大学
所属学部・学科等名	地質学部
在 籍 身 分	留学生
留 学 期 間	2017 年 10 月 2 日 ~ 2017 年 12 月 13 日

1. 留学するまで

留学しようと思ったきっかけ・理由	専攻より PEACE プログラムの概要の知らせがあり, 受け入れ教員の一人として私の専門分野の先生がおられたため, また海外での研究を行うよいきっかけになると思ったから。
留学準備を始めた時期 (応募する何か月前ですか?)	応募時までは特に留学準備を行っていない。
事前準備について (どのような準備をしたか, しておけばよかったか)	各種書類手続きに加え, ビザ取得, 渡航先で必要となる予防接種等, また, 留学先での指導教員の先生との研究の打ち合わせ(E-mail)。

2. 渡航について

ビザについて	ビザの種類: 3ヶ月留学ビザ
	ビザ申請先: ベトナム総領事館 (大阪府堺市)
	提出書類: 留学先の大学から送付されてきたビザ申請書類, パスポート
	手続きに要した日数: 留学 1 ヶ月半ほど前にパスポート等のコピーを留学先大学に送付, 留学先大学からベトナム総領事館へ書類を送付, ベトナム総領事館にパスポートと留学先大学から送られてきた申請書類を持参すると, 受付後 1 時間以内に入手可能。
その他必要な事前手続き	必要なら予防接種
出国年月日	2017 年 10 月 2 日
経路 (往路)	広島空港→台北桃園国際空港→タンソンニャット国際空港 (チャイナエアライン)
現地での出迎え	有 (研究室の講師の方)
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	研究留学のため特になし。

帰国年月日	2017年 12月 13日
経路（復路）	タンソンニャット国際空港→台北桃園国際空港→広島空港（チャイナエアライン）

3. 留学費用について

支出額	総額	230,000	円	
	内訳	渡航費（航空券）	0	円（広島大学負担）
		保険料	28,640	円
		教科書代（学費）	0	円
		宿舍費	54,000	円
		光熱費	0	円
		食費	45,000	円
		交通費（宿舍－大学間）	0	円
		交際費	40,000	円
		その他（パスポート、ビザ等） （ 予防接種費 ） （ 費 ）	20,000 36,000	円 円

4. 授業について

授業の概要について （カリキュラム、プログラム、履修した科目、時間数、履修形態等）	履修としての授業はなし
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
授業・勉強についてアドバイス （留学前の履修、留学中、単位取得等）	授業の履修はしていませんが、授業の内容、言語等疑問があれば受け入れの先生やコーディネーターの方になんでもメールなどで相談するのがいいと思います。

5. 生活等について

(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 大学紹介のユースホステル ）
住居の広さ	5人部屋にベッド1台 同居人の有無 有 <input checked="" type="checkbox"/> 有（0~3人） <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input checked="" type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input type="checkbox"/> 暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 冷房 <input type="checkbox"/> 台所 <input checked="" type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他（ ）
住居費	1泊 150,000 VND (現地通貨) 約 750 円
留学先での住居全般に関するアドバイス	宿泊したユースホステルは綺麗で非常に快適でした。朝食付きでこの値段なので非常にありがたかったです。大学の寮やアパートに限らずいろいろ探してみるといいかもしれません。
(2) 医療について	

留学先でかかった病気、けが	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
有の場合、具体的な症状等（情報共有しても差し支えなければ）	
留学前後での予防接種の必要の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
有の場合、その種類、回数、費用、受けた医療機関名	A型肝炎、腸チフス、破傷風、日本脳炎を各1回
日常的な健康について不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由：
留学先国の医療事情（日本と比較して）	体調不良は全く有りませんが、万が一体調を崩してもホーチミンシティに関しては医療も発達しており全く問題なさそうです。また日本人が経営しているクリニックもホーチミンシティの中心街にあるそうなので言葉の面でも安心です。
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	事前に調べると飲み物の氷や生野菜でお腹を壊したりすることがあるとよく言われているようですが、2ヶ月半氷や生野菜も気にせず口にしていますが、全くお腹を壊すこともありませんでした。予防をすることは大事ですが、必要以上に心配することもないと感じました。
(3) 食生活についてのアドバイス	
ベトナムの食事は何を食べても本当に美味しいです。また使う食材も日本と特に変わらない印象です。ベトナムで普通の食事をしていると、野菜が多く、日本よりもむしろ栄養的にバランスがいいのではないかと思います。	
(4) 服装についてのアドバイス	
ホーチミンシティは熱帯サバナ気候と、年中最高気温は30度を超え、最低気温も20度をあまり切りません。また雨季と乾季が明瞭です。服装は日本の真夏と同じで大丈夫そうです。ただし日差しはかなり強いので薄手の長袖や、帽子、日焼け止め等で紫外線から守ることは大事です。	
(5) 学内外の施設・設備環境について（インターネット環境含む）	
学内外においてWi-Fi環境はかなり整っています。ただし、日本の研究室とSkypeを使ってセミナーに参加しようとしたのですが、通信容量が原因なのか、うまく繋がりませんでした。インターネットの閲覧、SNS、メール等はWi-Fi環境で全く問題ありません。なので、現地で携帯を契約しませんでした。それほど不自由には感じませんでした。外に出かけた際も、ショッピングセンターやカフェに入るとどこもフリーWi-Fiがあります。	
(6) 現地学生や地域との交流について（どのような、機会・きっかけがありましたか?）	
基本的に研究室の交流です。研究室外でも、同じ学部でゲストのセミナーなどがあればそれに参加し、交流しました。ベトナムの人はみなフレンドリーで親切なのですぐに馴染めました。	
(7) 習慣やマナーの違いによる対人関係等、注意すべきこと	
特に習慣やマナーの違いで苦勞することや注意事項はありません。	
(8) 日本から持っていくべきもの、持っていくべきでないもの	

たいいの物は現地で購入できるので、必要以上に持って行き荷物を大きくすることもないと思います。持っていくべきでないものは特に思い当たりません。

(9) その他生活等に関して参考となる情報・アドバイス

ホーチミンシティはバイクの交通量はかなり多いです。道を渡るのに一苦労の場合もあります。慌てずにゆっくり歩くことが大事です。走って渡るのが危険です。バイクの方が避けてくれます。また治安もよく、物を盗まれたり、危ない目に合う、目撃するといったことも全くありませんでした。

6. 帰国後の進路について

卒業予定年月	2020年 3月 (当初の卒業予定年月 2020年 3月)
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他(具体的に)
現在の状況および今後の予定・進路等	現在は博士論文執筆に向けた研究を行なっています。また本プログラムで得られた調査結果も論文として出版できるよう分析等を行っています。
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫	実際に就職活動や教育実習は行っていませんが、就職活動の本番に留学期間が重ならない限り留学が就職活動において不利になることはないと思います。現地でも情報収集等、日本と変わらずに行えます。むしろ留学は就職活動においてもプラスに働くとと思います。

7. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等

書籍、サイト名	詳細(出版社、URL等)	コメント
Wikipedia	https://ja.wikipedia.org/wiki/	気候から歴史に至るまで非常に参考になります。
VietBao	http://vietbao.vn/vn/thoitiet/	いつも天気などチェックしていました。

8. 留学を振り返って

留学を終えての感想：出発前は期待とともに不安もかなりありました。しかし、実際にホーチミンシティへ行くと現地の生活にはすぐに慣れました。ベトナムは思っていたよりもはるかに発展しており、非常に住みやすく便利な土地だと実感しました。日本にいる時のイメージとは全く違いました。またベトナムの人は非常に親切でフレンドリーで対人関係等で苦労することは全くなく、すぐに溶け込むことができました。日本とベトナムは文化も非常に似ており、我々日本人にとって非常に生活しやすい国であると思います。

後輩へのメッセージ：留学はメリットだらけだと思います。将来就職を希望する人や、研究者を目指す人など、人それぞれ様々な目標があると思いますが、全ての人にとって良い経験になるはずで、就職活動において海外での留学経験はかなりのアドバンテージになるはずで、研究に関しても留学先の大学とよいつながりができ、うまく行くと学会発表や論文の執筆など実績を残せるはずで、もちろん不安もあると思いますが、それ以上に実りある留学に必ずなると思います。

9. 自由記述 (1200 字以上)

- ・「学習に関すること」や「生活に関すること」について自由に書いてください。
- ・写真を2~3枚貼り付けてください。(各写真の容量を100KB程度まで小さくすること)

2017年10月2日から12月13日まで、およそ2ヶ月半、ベトナム国会大学ホーチミン市校自然科学大学地質学部へ留学しました。ホーチミンシティは非常に活気がある街で、急速な経済発展を遂げている様子がすぐに分かります。ホーチミンシティは熱帯サバナ気候に属し、年中最高気温は基本的に30℃を超える気候です。広島県の真夏の一番暑い時期より少し涼しい程度でしょうか。でも夜は意外に気温が下がり、また湿度もそれほど高く感じなかったため、日陰に入ったり、風を浴びると涼しく感じます。留学前はもっと暑くジメジメした気候を想像していたため意外でした。

留学先で受け入れてくださった先生の専門分野は岩石学、地球化学、地質年代学で、ちょうど私の専門分野と一致します。ただし、研究手法は同じでも、地質学には地域依存性があり、研究対象の地質が日本とは大きく異なります。そのため、ベトナムの地質を理解し研究することは、日本では決してできないことであり、私にとって大きなメリットでした。日本は複数のプレート境界に位置し、地震や火山が非常に多いことが知られています。一方ベトナム付近に現在はプレート境界が存在せず、地震活動や火山活動も活発ではありません。ただし、現在と書いたのはあくまで今に限定した話であって、過去に遡るとベトナムでも活発な火山活動があったことが知られています。私は主にベトナム南部で、白亜紀の大規模な火成活動で形成された流紋岩や花崗岩といった岩石の調査をすることになりました。実は我々の住んでいる広島県にも白亜紀に形成された流紋岩や花崗岩が広く分布しています。遠く離れた日本とベトナムでも同じ時代に同じような岩石を形成する火成活動があったことが分かってきています。

研究室では、ベトナムの地質に関する論文を読み、またセミナー、講義を受講しました。セミナーや講義は英語で行われるものだけでなく、ベトナム語で行われるものも含めて多く参加しました。ベトナム語で話される講義であっても、スライドは英語で書かれているものであれば理解しやすいですし、スライドがベトナム語で書かれてあっても、スクリーンに映し出される図や表は理解できたりと、受講するメリットは非常に大きいものでした。また、学部生や大学院生を対象としたゲストセミナーで発表も行いました。セミナーでは'Geology of Japan'と称して、日本列島近傍のプレート配置や、日本列島の地質の成り立ちを古い時代から新しい時代へと順に説明しました。ベトナムの学生さんは非常に真面目で意欲的で、私自身もかなり刺激を受けました。発表中や発表の後に様々な質問をもらい、日本の地質に大変興味を持ってもらえたようで、非常に充実したセミナーになったと感じています。

11月の末には、先生や研究室のメンバー、ドライバーを含め計6人で3泊4日のフィールド調査へ出かけました。事前に調査で採取したい岩石を、今までに出版されている地質図を元に決定し、そこへ赴きます。もちろん調査に行ってみると様々な発見があるわけで、決して予定通りに進むわけではありませんが、そこも地質調査の面白いところ です。

日本へ帰国してからは、調査で採取した岩石を広島大学が所有している測定機器を用いて分析を行っており、今でもベトナムでお世話になった先生や研究室の方々とメールで調査結果のやりとりを続けています。今回の留学で、ホーチミンと広島との両研究室で共同研究体制を築くことができました。今回の留学では非常に多くのものを得ることができ、大変充実した留学になりました。



フィールド調査の際に立ち寄った寺院。右がお世話になった先生、中央が筆者、左がマスターの学生さん。



セミナーの様子。日本の地質の成り立ちや、研究手法を紹介しました。